



# ■会員だより

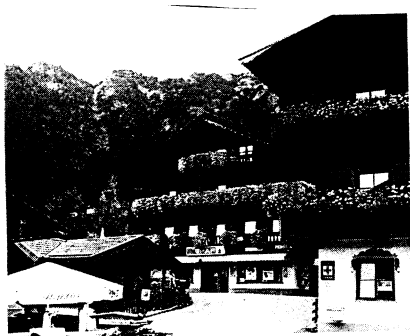
## チロルへの山旅

(30・商) 石坂 松男

振り返ってみると、山へ登り始めて、かれこれ五十年。この間、特に若い時は、オーストリアのチロルへ憧れたものだ。

チロリアンハットが被りたくて、親爺の古いソフトを持ち出し、鍋で、じっくり煮出し、伸ばしたり叩いたりして、和製(偽)チロリアンハットを造ったりした。  
また、チロルの民謡であるヨードルを唱いたくて、あの独特の裏声の特訓に汗を流したこともあった。

さて、チロルと言う所は、岩と氷雪の山と氷河もさることながら、



ヨーロッパの美しい村 ALPBACHにて

その大きな特徴は、TALと呼ばれる、圈谷がたくさんあることだ。

これらの谷は、氷河によって深々と抉られた典型的なU字谷だ。谷の下流の兩岸は断崖絶壁だが、源流にゆくに従って開け、そこに針葉樹中心のアルムと牧草豊かなアルプが入り交り、放牧の牛や羊が、のんびりと牧草を食む。

このような牧歌的な情景の中に、小さな可愛らしい村落が、つましやかに点在する。村落の家々は、シャール風で、白壁には壁画が描かれ、それぞれのペランダは色鮮やかな、たくさんのゼラニウムで飾られている。

こんなチロルの谷々をあちこち歩き回り、疲れて、小さな山小屋風のレストランで、ビールを飲んでみると、私の頭の中は歌声で満ち満ちてくる。

森の奥には、旅籠があり、娘らが居て、酒を飲まず、

ハイデイハイダ ハイデイハイダ

これは若い時に覚えた、チロルの歌だ。

このようにして、チロルをこの目で見、この足で踏み歩いた、十

二日間であった。

だが一方、これらの谷に住む、生活者にとっては、気候風土は厳しく、土壤は貧しい。その生活の営みには過酷な労働をとまなう。

しかし彼等は、この苦しみを立派に克服し、自然と共存している。ただそれだけではなくて、自然に対する限りない愛情さえ感じさせ

それ故にもっともってチロルを見たい歩きたいとの思いが、日ごとに募る今日この頃である。

## 多摩川源流を訪ねて

(31・国) 西村 米子

「美味しい、本当に美味しい」と、みんなの両手にしつかり受止められた多摩川源流水干の岩より

かすかに湧き出す水、この一滴が多摩川の源です。「多摩川河口から源流を訪ね歩く」に誘われて東

京湾から一三八キロ、一か月一回の旅も六月八回で完歩になりました。多摩川の源の水を一口飲みたくて、雨の日も小雪混じりの中も

歩き続けました。

歩いてみると、上流中流下流とそれぞれ変化があつて面白く、不断見慣れた景色も川の反対側から眺めるとまた別のものに見えたり



鳩の巣小橋にて(左端筆者)

するようです。

羽田ではいつも何気なく乗っているモノレールが地上から地下へ潜る様子を反対側の右岸から眺められ、岡本かの子田居近くの大きな菓子工場から漂ってくるクッキ

ーの匂いにおなかの虫が鳴いたりしました。歩き続ける道には河口よりのキロ数が道標でわかり、疲れた足が元氣を取り戻しました。

近くに住んでいながら知らなかつた牛群という岩床、風情ある川霧どちらも初見参。

遠くから眺められた山に近づいてくると、ヤマセミ、キビタキ、オオルリ等が時折姿を見せます。

足下には大好きなチゴユリの群生、ウバユリ、キンラン、ギンランにも出会え、樹々の緑の濃淡、木漏れ日に自然と唇から歌が流れ出ました。

丸太橋を何回も渡り、小さな流れも右に左に、ミズナラやカラマ

## 能と謡曲

(39・教) 工藤 英雄

ツの林を行くとエゾハルゼミの合唱とウグイスの声に迎えられる水嶺に着き、辺り一面のカヤト、目前に笠取山でした。山の裾を回って水干に行き念願の水を飲み元氣をだし急登に挑みました。軽いザックが重くなり短足の悲哀を感じること頻り。無事一九四一米の笠取山頂上に立てました。

日数をかけて歩き続けた道もあつという間の帰路でした。夕暮れの大岳山のシルエットは、また山へのいざないのようでした。

爽秋のある日、先輩に誘われ、初めて能を観た。『これが幽玄・情念の花といわれる能なのか!』時に早稲田の一年生。それから間もなくして謡を習い始め、十年経ち十五年唸って、教本が七十番を超え、ようやく腹から声の出る謡曲の感覚を得たのである。

謡は囃子と同様、音楽的要素であり、舞踏的要素の仕舞とともに三位一体となつて能を形成し、互いに生かし生かされて観客を魅了するものである。謡の構造、リズム一つをみても複雑で難解だが、聴くほどに深い風趣がある。歌詞

## 〔表題〕

「メル友を探してます」

## 〔本文〕

『お話しませう

最近、先の見えない就職活動に  
すっかり嫌気がさしています。  
忙しすぎて友達の輪も狭まってきて  
気がするし……  
というわけで何気ないお話ができる  
メル友を探してます。  
男女共にOKです。  
できれば学生じゃない人がいいな。』

5月下旬にメール交換を始めた私のメル友の当時の募集コピーである。「出会い」系のホームページで見つけ、意気投合！ほぼ週2往復のペースでメール交換を続けている。

一行目が旧仮名遣いなのは、古書になじみのある文学部の女子学生らしい洒落を含んだ表現、と後で知った。

インターネット、IT(情報技術)は、もはやブーム、流行の域を超え、今や政治、経済、社会、文化の一つの「インフラ」としてその位置を固めつつある。さらに、その進歩、変化は速い。IT革命や、電子商取引によって社会構造そのものが揺さぶられている様子は、犬の一年は人間の数年分にあたるといって、まさに「ドッグイヤー」の進行である。

この中で暮らし、働く私たちが、その変化をキャッチアップしていくのは、また大変である。今や、「読み、書き、算盤」の中にパソコン、インターネットが含まれるとさえ言われる中で、どうせ不可欠な「作法」ならば、いっそのこと、積極的に取り込んで、楽しんでしまった方がいい、的なノリで始めたのが「メル友活動？」である。

幸い、彼女は苦勞の結果、就職活動中に見出した、意中の企業から内定を獲得した。本名も知らず、まして顔を見たこともないメル友の奮闘を心から喜び、自分も肩の荷を降ろす……「インターネット」も、まんざらでもないのでは、と思っているところである。

(H・A)

文言も美辞麗句そのもので、生老病死・喜怒哀楽が巧みに表現されて一字一句の無駄もない。謡と囃子によって生き生きとする仕舞も楽しい。面をあけて月を仰ぎ、山を眺め、鳥の行く姿を追う。行雲流水、草木に目を注ぎ、波に戯れ、そして事に涙する。ムダを省き、動きを極度に切りつめる。動中の静、静中の動がまた安らぎと感動を与える。いわゆる能の美、幽玄の美の極致である。そこに能の花は咲く。能という花は、役者演者の演技演奏が観る人の感動を呼び起こした状態という。

警(たど)えはやや異なるが、不世出の名僧、白隠禪師が幼少の頃、寄せては返す海を眺め、天地自然の壮大な営みにハラハラと落涙したという情況に何か相通じるものがあるのではないか。



(30・法)  
野口 晋

## 水墨画と私

観るものを魅了し、夢幻の中に誘い込んだ時花はさく。四季折々の花は美しい。その美しさが花の比喩であり、官能的な、華麗な情趣である。

世阿弥のいう『花はこころ』の名言どおり、花は散る故に一層愛惜される。いわば、栄枯盛衰、諸行無常を演ずるが故に幽玄なる能・謡曲は面白い。

潮波み車わずかなる憂き世にめぐる はかなさよ……

小学校以来、絵などを描いたこともなかった私が、今、水墨画教室に通い、結構はまっているこの頃であります。三、四年ほど前のこと、そろそろ勤め先からも「ご苦勞さん」と声をかけられ、さてこれからどうやって時間を消化しようかと考えたものです。そんな時、新聞の折り込みで「とうきょう社会保険センター八王子」で開かれていた水墨画教室のことを知りました。生徒さんはおおむね同輩の方で、二十人余。

水墨画の面白い(難しい?)ところは、墨のぼかし具合とにじみの出し方にあると思います。山水と花鳥とに大別されますが、洋画のような写実的な表現より、作者の気持ちを画仙紙の上に表現する事が水墨画の世界だと言われます。現在年に一度の展示会が行われ

ていますが、毎年、出展の日が近づくと「どうしよう、どうしよう」と思いながらも、会場に並べられた自分の画に、今年もどうにかやったぞと言う充実感みたいなものを感じています。

もう一つ、教室の楽しいことがあります。それは教室の人たちが、皆明るく楽しい人たちがばかりなのです。画を描きながら互いに褒めあい、適度に批評し、冗談を言い合ってワイワイガヤガヤ過ごします。画仲間と顔を合わせるのが楽しみで通っているようなところもあるのです。画のことはよく分かりませんし、素質もないので、上手くなるわけでもありませんが、これからも続けてゆきたいと思えます。日野稲門会員の方で水墨画を描いている方が居られたらご交誼のほどお願いします。

## NPO法人

## 日本救助犬協会

E

(27・経) 中西 摩可比

平成7年1月17日発生した、阪神・淡路大震災にあたり、多くの家屋倒壊や火災の発生により、6千数百名の命が奪われました。

海外から救援のために派遣された救助犬部隊が、日本側の官僚機構の悪さで円滑に被災地に到達することができず、結局、3日後に救援活動ができたことは、ご承知の事と思います。

このような状況を見聞きした時、一刻を争う場合、日頃から救助犬としての訓練を積んだ犬達を行政との連絡をとり、スムーズに活動が行えるようにしたいと考え、平成8年6月1日「日本災害救助犬協会」としてボランティア活動の会を旗揚げしました。

平成10年12月1日には、ボランティア活動に取り組む民間の非営利団体(NPO)に法人格を与え、支援するための特定非営利活動促進法(NPO法)が施行され、経済企画庁と全国の都道府県で法人格取得の申請ができることになりました。

当協会も平成11年10月には、NPO法人として東京都より認証され、災害時のみならず、広範囲の救助犬として福祉に貢献すべく「日本救助犬協会」として、新たに発足し、現在に至っております。

(以下次号につづく)

# 同好会だより

## ハイキング会

幹事 山本 栄道

第9回ハイキング会を平成12年3月20日に、梅を観に行こうと言う事で、参加者8名にて、JR御獄駅よりバス、ケーブルを乗り継いで御岳山に登り、神社に詣でてボツボツ歩き出す。今日は梅を観て一杯やれば、目的達成である。そんな訳で皆の脚もこのほか遅く、家族連れ、若いカップルにも追い抜かれ、漸く日ノ出山に着く。梅の木峠で昼食をとり、いよいよ吉野梅郷に向かう。以前に山行途中で、埼玉県の越生梅林脇を通った事があるが、いわゆる梅林で且つ有料であった記憶がある。そ



顔振峠で記念撮影

れに比し、吉野梅郷は、かなりの面積の丘陵地に紅白の梅林を配した一大公園である。散会して梅見としたが、誰一人鑑賞する者なく、日向和田駅近くの居酒屋で、花より団子であった。第10回ハイキング会を平成12年5月6日に、参加者8名で、奥武蔵のJR越生駅より西武秩父線吾野駅までのコースを歩く。越生駅の前の法恩寺と言う札所横から林道を歩き、不規則な石段を登ると無名戦士の墓に着く。その裏から白樺の植林地を抜け、暫く急な上りを登ると、西山高取を経て大高取山に着く。桂木観音から鼻曲山をめざし、越上山に向かうコースを取る。もちろん道はしっかりとおり、分岐さえ間違えなければ迷う事はない。が、桂木観音から目的地の三叉路の林道に出る手前で藪漕ぎなどしたもので、かなり手前に出てしまい、一瞬間在地を見失ってしまった。越上山の岩稜帯の三角点を踏み、本日唯一の見晴しの顔振山に立つ。奥武蔵の山は大部分が植林地で、雑木の山は極く少なく、見晴らしの良い山は少ない。吾野駅前の売店での缶ビールを楽しみに下山す

## 囲碁部だより

幹事 嶋田 富次  
嶋崎 巖

このたび、日野稲門会囲碁部が愛好者を集めて、毎月定例的に囲碁会(稲石会と称する)を持つこととなりました(詳細は後記)。我が建学の祖、大隈重信侯は、かつて「将棋」と「囲碁」を評して、「将棋」は、お互いに敵の玉将を追いかけ「雪隠詰め」のように征めまくる「戦争」に例えられるものであり、「囲碁」は、お互いに自分の地所を、ふやす為に打つ、「石の効率」を考へることに専念する「経済」にも例えられるものである。

私の囲碁は、残念ながら、未だ敵の石を追ひ回す「将棋」のようなものである。』  
と言った逸話があるようです。何はともあれ、日野稲石会には、たいへんお上手な人も居られますが、私のような下手な者も居りますして、「碁仇は、憎さも憎し、懐かしし」勝った時には鼻を「ピクピク」させて喜び、負けた時には、「ヨウシ、今度こそギャフンと言

る。西武線沿線の売店は、16時が閉店、念のため。

## ゴルフ同好会報告

幹事 森田 治夫

〔第4回 昭和の森ゴルフコース〕  
平成11年11月30日 参加者15名  
1位 小笠原豊(40卒) 43・48(91) 16.8  
2位 山口隆久(41卒) 46・50(96) 21.6  
3位 嶋崎 巖(34卒) 49・49(98) 22.8  
第5回は、平成12年4月の新会員名簿によるゴルフ愛好者が25名増え、50

名の方にコンへの通知を発送、6組の参加を得ました。  
〔第5回 昭和の森ゴルフコース〕  
平成12年4月24日 参加者23名  
1位 山口隆久(41卒) 44・39(83) 10.8  
2位 池田彰男(40卒) 46・45(91) 18.0  
3位 金沢信治(37卒) 57・48(105) 31.2  
コンペ終了後、日野駅西のサカエヤ茶楼にて、表彰式と自己紹介懇親会を行い、談笑のうちに散会しました。  
することとする(毎月第二、第四土曜日午後一時より四時まで、国立市民会館にて開催中。)

わせてやる」と懐かしむ暇もなく、対局にいそしんでおります。  
囲碁の愛好者の皆さま、どうかお気軽に、日野稲石会の例会にお出掛けください。  
初参加の方は、嶋崎巖幹事(電話591-2275)までご連絡ください。

日野稲門会の囲碁部例会(稲石会と称す)の詳細は、次のとおりです。  
▽期日と時間 毎月第三土曜日午後1時より5時まで(ただし会場が毎月抽選で決まるので変更もあります)  
▽場所 日野市勤労青年会館(日野市多摩平一11-1) 電話042-586-6251 JR中央線豊田駅北口徒歩二分  
▽会費 毎回一名につき五〇〇円(内訳、会場費の分担金、飲物、お菓子)  
▽反省会 毎回、囲碁会終了後、ご都合のよい方のみ、参加自由で反省会と言ふ名の飲み会を持ちます。(豊田駅最寄の居酒屋で割勘、二千円程度)  
▽国立稲石会との交流提携 従来よりの友好関係を継続し、今後も国立稲石会にも進んで合流参加(出席)

〔追記〕 このたびの例会発足にあたって、事務局局長森田さん、幹事祖母井さんのご尽力と碁盤、碁石10組購入に際して千田会長より、応分の寄付金を頂戴したことを付記して感謝申し上げます。(嶋田記)

### ◆会員の動き

- (平成12年4月〜9月)
- 〔新入会員〕  
西海智恵子(昭41 一西洋史) 千191-0016 神明3-25-12 ☎583-3956  
(趣味:スポーツ) 茶道、美術鑑賞  
村山 友宏(昭42 一政治) 千191-0001 栄町3-8-64 ☎584-5708  
(趣味:スポーツ) ウォーキング
- 〔退会会員〕  
大塚 幸夫 転居  
馬場 聡 転居  
堀切 達彦 都合による  
佐藤公次郎 健康上  
古浦 宏之 転居  
(名簿訂正)  
長谷川成海  
(住所) (正)多摩平3-2-7  
(誤)多摩平3-2-7-104  
(勤務先) 帝京大学法学部